

書評家が揃って大絶賛! 2018年必読の傑作ミステリ!

池上冬樹

三部構成で、それぞれの終盤に意外な出来事を用意して驚きの展開をなしとげる。おお! そうくるか! と誰もが昂奮するだろう。**これは出色の犯罪小説。読むべし!** 「週刊文春」2018年3月22日号

池澤春菜

殺すものと殺されるもの、追うものと追われるもの、4人の男女のモノローグで進められる物語は何度も裏返し、思いも寄らない展開へ。**悪女リリーが最高に魅力的**。「朝日新聞」2018年3月4日 (18-2148)

上原 隆

第一部を読み終えた時点で、私は本書を手放せなくなった。電車の中はもちろん、**風呂でも、食事中でも、ベッドの中でも**…、一気に読み進んだ。「産経新聞」2018年3月17日

大矢博子

はたして首尾よくミランダを殺せるのかとドキドキし始めたとき、突然の思いがけない展開に心底驚いた。えっ、そっちから来るのか! そこからはもう、止まらない止まらない。仕掛けもドラマもサプライズも一級品。いやもうこれ**マジ必読っすよ**。「ミステリマガジン」2018年5月号、Twitter

川出正樹

想定外の展開に思わず本を落としそうになった。**なんなんだ、この話は!** しかも、それだけで終わらないのだよ。いやこれ以上は書けません。出来るだけ予備知識を入れずに読むことをお勧めします。2018年の目玉となるだろう逸品。とにかく先が気になって一気に読み通してしまいました。「翻訳ミステリー大賞シンジケート 書評七福神の二月度ベスト!」2018年3月15日、Twitter

杉江松恋

第二部を読み始めた瞬間に、**ええええっ**、と声を上げてしまう小説に何か上手い名前をつけられないものか。と、『そしてミランダを殺す』を読みながら思った。もちろん、**ええええっ**、と言ってしまったからである。「WEB本の雑誌」【今週はこれを読め! ミステリー編】2018年3月9日

千街晶之

事態は二転三転どころか四転五転六転七転、**凄まじいツイストの連続**に読者は振り回されっぱなし状態となるのだ。「小説すばる」2018年5月号

三橋 暁

自分なりのスタイルで犯罪小説というジャンルをまるごと前に進めようとする逞しさがある。**二十一世紀の犯罪小説**とも呼びたくなる新鮮さの所以だろう。「そしてミランダを殺す」解説より

吉野 仁

今年最初の大収穫として挙げたい傑作。本作は情報をあまり入れずに無心で読みすすめたほうがより楽しめるに違いない。海外サスペンス好きなら文句なしにお勧め。「翻訳ミステリー大賞シンジケート 書評七福神の二月度ベスト!」2018年3月15日

この展開、予想できるはずがない!

そしてミランダを殺す

ピーター・スワンソン 務台夏子訳
創元推理文庫

